

対面授業に不安を抱えている学生の皆さんへ  
～隔離から自衛的再開へ～

本学では、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を受けて5月11日より遠隔による授業運営を行ってきましたが、山口県及び全国各地における緊急事態宣言の解除や感染の減少傾向を踏まえ、感染防止対策を徹底した上で、原則として対面授業を再開することとし、5月29日付でお知らせをいたしました。

この「原則として対面授業を再開する」という方針決定に当たっては、理事長を本部長とする「新型コロナウイルス感染防止危機対策本部」において、国内及び県内の感染拡大状況をはじめ、国や山口県、関係自治体の対応方針や対策ガイドラインを踏まえるとともに、本学が所在する地域の状況や学生の皆さんの生活状況、遠隔授業の実施状況や臨地実習等の可能性等、様々な角度から慎重に検討いたしました。その結果、皆さんの安全の確保と教育権の最大限の保障という二つの観点から、現時点においては、6月15日からの再開が可能であると判断していたところです。

こうした中で、先日、学生の皆さんから学長あてに対面授業再開に関するアンケート結果や多くのご意見をいただきました。これらの様々なご意見を通じて、学生の皆さんのニーズが多様であり、それぞれの置かれている状況を勘案すれば、不安な気持ちを抱くのも無理もないことと、改めて痛感した次第です。

これからも続いていく新型コロナウイルス拡大防止への取り組みを考えれば、教職員と学生とが協働して対処していくことは不可欠です。

このため、皆様から寄せられたご意見やご提案の趣旨も汲み取った上で、このたび、「遠隔授業では十分な教育効果が見込めないものについては対面授業を再開するものの、現時点において教育効果に減退の恐れがないと判断されるものについては、引き続き遠隔授業を継続する」と修正いたしました。

もちろん、このように対応を修正したとしても、残念ながら、皆さん方の新型コロナウイルス感染への不安を完全に払拭できる100点満点の解答でないことは、十分に承知しています。しかし、完全な形での安心・安全を実現するためには、皆さんも既にご承知のとおり、この新型コロナウイルスに対応できる「ワクチンの開発」を待たなければなりません。それを待つことになれば、1年以上かかると予測され、例え後期に入ったとしても対面授業の再開は困難であり、一年を通しての教育の質も担保できなくなります。

これまでの間、私たちは新型コロナウイルスとの「自衛的共生」の途を手探りで見いだすしか手立てはないものと考え、また、本学が小規模大学であるという利点を生かしながら、刻々と変化する状況を見極め、各時点における最良の道を模索しながら、対応策を検討してまいりました。

本日現在、県内においては、1ヵ月以上にわたって新たな感染者が発生しておらず、北九州での感染も収まりつつあること。また、全国で最も感染者が多い東京都でも「東京アラート」の解除を決定したこと。そして、既に5月25日から、県内の小中高校では授業が再開されており、今のところ感染発生も抑え込まれている状況にあります。

一方、南半球のブラジル(冬)では、一気にコロナウイルスの感染が広がっていますので、後期における対面授業の再開を期待していても、その実施を諦めざるを得なくなることも大いに懸念されることです。こうした様々な情勢を考え合わせて、今のタイミングこそが、可能な範囲で対面授業の再開に漕ぎ着けることができる数少ない機会であるとの結論に至ったものです。

特に、新入生の皆さんは、入学式が中止されて以降、初期の対面授業が実施されたのみで、友人関係や教職員との直接的な関係形成をする機会も殆ど設けられない状態で推移してきたことについては、安全確保のためやむを得なかったとは言え、教育者として大変心を痛めており、地域社会における感染状況とそれへの対策を行いつつ、できるだけ速やかな大学の正常化を図る必要があると考えているところです。

学生の皆さんにおかれましては、今回の大学としての考え方・方針決定に対してご理解いただきたいと思います。当分の間は、この新型コロナウイルスと向き合って対処するしかないので、私たちのこれまでの生活習慣を変えて学外生活においても十分な配慮と自衛対策を講じながら、学内での感染防止対応にも留意してもらいたいと思っています。

なお、今後において、山口市内での感染者の確認が相次ぐなど、少しでも状況に変化が見られる場合には、可及的速やかに感染防止の対応をとることとしており、再び遠隔授業のみの体制に戻さざるを得ないことがありえることを申し添えておきます。よろしくご協力の程、お願いいたします。

また、課外活動については、今後の学内における対面授業の実施の状況を踏まえながら、6月末を目途として、段階的に制限を緩和していく方針ですのでご承知おきください。

長期化が予想される新型コロナウイルス感染症への対応について、学生と教職員とが力を合わせ、しっかりと難局を乗り越えて行きましょう！

令和2年6月12日

山口県立大学学長 加登田 恵子